

NEWS

ニュース

2002年度日本語能力試験の応募者数

昨年12月1日(日)に、2002年度の日本語能力試験が、国際交流基金、(財)日本国際教育協会の共催で実施されました。

この試験は、日本国内外において、原則として日本語を母語としない人を対象に、習得した日本語の能力を客観的に測定し、その能力を認定することを目的としています。1984年から実施されており、今回で19回目を迎えました。

今回は国外38の国・地域の89都市、日本国内6地域で実施され、総計286,168人(昨年度比約6%増)の応募者がありました。

各級の応募者数については別表のとおりです。

級別	2002年度 応募者数(人)	2001年度 応募者数(人)	伸び率 前年度比	
国外	1級	54,928	48,317	13.7%
	2級	67,302	60,257	11.7%
	3級	67,951	65,579	3.6%
	4級	40,757	41,808	-2.5%
	小計	230,938	215,961	6.9%
国内	1級	32,818	35,847	-8.4%
	2級	12,536	10,382	20.7%
	3級	7,097	5,879	20.7%
	4級	2,779	2,783	-0.1%
	小計	55,230	54,891	0.6%
合計	286,168	270,852	5.7%	

日本語教育論集『世界の日本語教育』 第14号 投稿論文の募集

国際交流基金日本語国際センターでは、外国語あるいは第二言語としての日本語教育に関心のある方々のための学術論文集『世界の日本語教育』第14号を2004年6月に刊行する予定です。これに掲載する論文を世界に向けて一般公募いたします。「投稿案内」及び「執筆基準」を2月半ばより、当センターのウェブサイト上で公開いたします。また、紙媒体での投稿案内等をご希望の方は、当センター情報交流課(連絡先は本ページ右下囲みに記載)までご請求ください。皆様からの積極的な論文投稿をお待ちしています。

1. 資格:

国籍、性別、年齢、所属は問いません。日本語を母語としない方からの投稿を特に歓迎します。使

用言語は、日本語あるいは英語です。

2. 内容:

次の何れかの分野で未発表のものに限ります。投稿者の居住する国以外においても有益となりうるような内容を望みます。

(1) 日本語教育(日本語応用言語学) 教育方法論、カリキュラム・デザイン、教材、能力測定・評価、第一及び第二言語習得、外国語教授法、文化背景などで日本語教育の理論と実践に関する学術論文

(2) 日本語研究及び関連分野

日本語学、社会言語学、心理言語学、対照言語学に関する学術論文(日本語教育にとって有用な論考を歓迎します。)

3. 採用予定本数: 15本程度

4. 論文の分量:

(1) 日本語原稿: 約20,000字以内。(ワープロ原稿の場合は、A4用紙1頁42字×33行で15枚相当。手書き原稿の場合は、400字詰め原稿用紙50枚相当。)

(2) 英語原稿: 約10,000語以内。(A4用紙35行で、25枚相当。)

* (1)、(2)とも、図表、注、参考文献などを含まず。

5. 論文提出締切日: 2003年7月31日(必着)

日本語教育シラバス・ガイドライン シリーズ(日本語版)の公開

当センターでは、現在7カ国9種の初中等教育課程用日本語教育シラバス・ガイドラインの日本語版をホームページ上で公開しています。

シラバス・ガイドラインは、当該国の日本語(外国語)教育の方針を知る上で貴重な資料であり、かねて『日本語教育国別情報』において、国(州)別に主要なシラバス(試験シラバスを含む)やガイドラインの一覧を紹介してまいりました。しかし、これらには翻訳がないものが多かったため、各々の言語を理解できる方以外には詳細を知ることが難しく、以前から翻訳出版を望む声が多くありませんでした。

このたび、制定や改定など最近大きな動きのあった国々のシラバス・ガイドラインにつき、関係者のご協力を得て日本語版を刊行・公開することが実現しました。これによって、海外の日本語教育のさまざまな取組みの実態が一層明らかになることでしょうか。刊行物は教育機関配布用に限ったので、個人の閲覧希望など幅広く対応するため、著作権者の許可を得て、インターネット上で全文公開及びダウンロードを可能にいたしました。

当センターとしては、今回の試みが日本語教育に携わる多くの方々のお役に立てればと願っています。また、内容の適宜更新はいうにおよばず、将来的には他の国々のシラバス・ガイドラインについても翻訳を検討してまいりたいと考えておりますので、ご意見、ご要望などございましたら、どうぞお寄せください。

アドレス: http://www.jpfi.go.jp/j/urawa/world/kunibetsu/syllabus/sy_tra.html

現在ご覧いただけるシラバス・ガイドラインは、以下のとおりです。

- 韓国 1. 外国語教育課程(Ⅱ)
2. 外国語系列高等学校選択科目教育課程
3. 中学校裁量活動の選択科目教育課程

中国 4. 全日制義務教育日本語課程標準

インドネシア 5. 専門高校カリキュラム

ニュージーランド

6-1. ニュージーランド日本語カリキュラム

6-2. ニュージーランド日本語カリキュラム

(サポートマテリアル)

英国 7. 現代外国語: 英国ナショナルカリキュラム

ドイツ 8. アビトゥア試験統一基準「日本語科目」

米国 9-1. 21世紀の外国語学習スタンダード

「外国語学習スタンダード」

9-2. 21世紀の外国語学習スタンダード

「日本語学習スタンダード」

海外向けビデオ教材 「日本語教育用NHKテレビ番組集」

国際交流基金では、NHK番組を利用した日本語教育用ビデオ教材を制作しました。このビデオ教材は、全世界の当基金事務所および事務所のない国については日本大使館に配布してあります。この教材は海外でのみ使用することができ、日本国内では使用することができません。教材概要は次のとおりです。

1. 制作の目的

海外の日本語学習者、特に若い世代の日本への関心と現代日本の理解を高めるため、実際の生活で使われている日本語を学習者に提供することを目的に、(財)NHKインターナショナルと共同して制作しました。

2. 教材の構成

- ビデオ3巻: 1. ドラマ「六番目の小夜子」
2. アニメ「あすきちゃん」
3. 「みんなのうた」

ビデオ1及び2にはそれぞれ、①字幕なし映像、②英語又は西語いずれかの字幕を追加した映像、の2篇を収録。

教材解説書: 教師向け指導用参考書で、日本語と英語の対訳。監修は長谷川恒雄慶應義塾大学教授、執筆は土井真美群馬大学助教授と保坂敏子慶應義塾大学非常勤講師。

3. ご使用の方法

この教材は日本語教育用として海外で使用することができます。全世界の当基金海外事務所(事務所のない国については日本大使館)を窓口として日本語教育機関に対して貸し出されます。著作権の制限があるため販売は行っていません。

なお、日本国内でこの教材を使用することはできませんが、参考・研究目的のため当日本語国際センター図書館等での閲覧は可能です。

お問い合わせ先: 日本語国際センター制作事業課
048-834-1183

編集部から

日本語も国際的になってきました。今回表紙エッセイを書いてくださったゾベティさんのように母語ではない日本語で小説や詩を書く人々が、賞をとったり、ベストセラー作品を世に出したりしています。

外国の方々が、日本語で表現することの魅力とは何なのでしょう? 思うに、ゾベティさんも指摘されていますが、視覚的な面白さは、大きな理由の一つなのかもしれません。扱う文字が多いことは学習者にとっては大きな壁ですが、見方を変えれば、多様な素材(=文字)があるのは、表現できる事象の幅が広いということでもあります。同じ音を表すにしても、ひらがな、カタカナ、漢字のどれを使うかで、ニュアンス(=伝達内容)が変わってくるのです。例えば、「綺麗な手」と書けば「マニキュアをした華やかな手」を想像しますが、「きれいな手」と書くと「セッケンで洗った清潔な手」の印象を受けます(ただし、文脈に左右される部分もあるので、必ずそうだとは言いきれません)。

こうした文字表現の豊かさが、より端的にわかるのは、名詞の世界です。漢字それぞれが持つ音・調読みを無視して、漢字の意味やイメージを表す言葉を、その名詞の読みとしてルビをふることはよく行なわれています。例えば、「空翔馬」と書いて「ベガサス」、「小夜曲」で「セレナーデ」などが挙げられます。人名についても、出生届けを役所に出す際、漢字の読み方について法規制がないので、「小春」と書いて「うらら(春によくつく形容詞「うららかな」より転じた女性名)」などと読み仮名をつけて登録をすることが可能です。最近日本でも増えてきている国際結婚で生まれた子ども達は、両親それぞれの文化を混ぜ合わせた名前を持つ例が多いですが、「鈴」で「ベル」、「標」で「マーク」、「美海」で「マリリン」、「冬夢」あるいは「柊」で「ノエル」など、なかなか考えるなど感心してしまいます。

こうしてみると、日本語の名づけの世界は、日本語学習者にとっても創造力を刺激する面白い遊びになるかもしれませんね。読者の皆さんも、何か良い名前を思いついたら、『日本語教育通信』編集担当まで、是非お知らせください。お待ちしております。(tt)

『日本語教育通信』 第45号

2003年1月発行

編集・発行 国際交流基金

日本語国際センター 情報交流課

〒336-0002 埼玉県さいたま市北浦和5-6-36

The Japan Foundation

Japanese-Language Institute, Urawa

(6-36 Kita-Urawa 5 Chome, Saitama-shi,

Saitama 336-0002, Japan)

TEL. 048-834-1184 FAX. 048-830-1588

E-Mail jfnctt@jpfi.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Japan Association for Cultural Exchange

(ACE Japan)

(表紙イラスト: 村井宗二) 古紙100%再生紙使用